

こどもにはビデオではなく絵本を

2007.07.05

7月に入り暑い日が続いています。心配された麻しんの流行も散発的で、大きな流行には至っていません。これも皆さんがしっかりと麻しんワクチンをされていたためと思われる。

平成15年に開業して程なく始めたブックスタートですが、3年間におよそ850冊の絵本が1歳の麻しんワクチンをしたお子さんに配られました。麻しんワクチンを1歳の誕生日から出来るだけ日を空けないでしてほしい、そんな願いもこめて始めたものですが、3年間でこんなに多くの子どもたちに絵本が届けられるようになるとは思ってもみませんでした。

絵本がビデオやテレビに勝る理由はいまさらという感じですが、言葉や絵をこどもと大人で共有して、コミュニケーションの楽しさを教えてくれます。最近では、寝る前のお話や絵本に親しんでいない大人が増えたせいも、この人間として最低限のコミュニケーションすらあまり重要ではないと考える方が多いと感じています。テレビやビデオをこどもに与えると、何度も一人で見ているので楽しいに違いないと思う方も多いようですが、コミュニケーションを育む力や1歳からの言葉の出方は、テレビからの一方的な言葉より、大好きなお母さんお父さんの生の言葉で支えられているといっても過言ではありません。3歳児健診で言葉が心配なお子さんは何か異常を持っているのではないかと相談されることが多いですが、よく話を聞くとテレビやビデオの見すぎがその一端となっていることが多い場合が数多く見受けられます。発達途上のこどもの1時間のテレビは、大人ではその数倍の時間テレビにかじりついていることと同じです。あなたのパートナーが何時間も会話もせずテレビにかじりついていたら、きっと会話をしようと声を荒げるでしょう。あるいは無言でテレビを消してしまうかもしれません。こどもがテレビを見ていたら静かでもいいと思っははいけません。その後何倍もの心配の種を抱えて困るのは、静かでもいいと思っあなた自身なのです。